

1. 事業の位置付け

事務事業名	交通バリアフリー促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	'02	2 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する	
根拠法令等	交通バリアフリー法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
公共交通機関を利用した移動の利便性・安全性が向上し、誰もが自立した日常生活を送っています。		電車やバスなどを利用した移動の利便性や安全性の向上を図るため、交通バリアフリー基本構想に基づき整備を行う公共交通事業者、道路管理者、公安委員会などへ促進を働きかけます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	平塚市交通バリアフリー特定事業推進協議会開催回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	1	1	1		
	実績	1	1	1		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	特定事業達成度			単位	%
	説明・算定式	平成22年度を100%とした達成率。各事業者が計画する特定事業の達成率を評価。				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	25	50	75		
	実績	25	50	75		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	駅構内や駅を中心とした周辺道路等に対してバリアフリーを望む声は多く、各事業者が連携し重点的かつ一体的に推進するよう調整する必要があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	各事業者と調整したうえで整備を進める事で、交通バリアフリー基本構想の具現化につながる有効な事業です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	交通事業者、道路管理者及び公安委員会のそれぞれの事業の協議・調整を行い、バリアフリー基本構想の進行管理を行うことは、基本構想の効率的な推進につながるため妥当性があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	市民や関係する事業者等の意見や提案により、本市が策定したバリアフリー基本構想を各事業者間と調整し効率よく進めています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		推進協議会の開催	推進協議会の開催	推進協議会の開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	0.35	0.35	0.25
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		2,937	2,937	2,089
フルコスト (A+B)		2,937	2,937	2,089

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	平塚駅周辺のバリアフリー化事業の早期実現を図るため、各事業者や市民が参加する平塚市交通バリアフリー特定事業等推進協議会を開催し、事業の進行管理及び調整を行った。	平塚駅周辺のバリアフリー化事業の早期実現を図るため、各事業者や市民が参加する平塚市交通バリアフリー特定事業等推進協議会を開催し、事業の進行管理及び調整を行いました。	平塚駅周辺のバリアフリー化事業の早期実現を図るため、各事業者や市民が参加する平塚市交通バリアフリー特定事業等推進協議会を開催し、事業の進行管理及び調整を行いました。
検証結果		A : 成果があがった	A : 成果があがった	A : 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		交通事業者、道路管理者及び公安委員会がそれぞれの実施計画に基づき、事業が推進できるよう進行管理に努める。	交通事業者、道路管理者及び公安委員会がそれぞれの実施計画に基づき、事業が推進できるよう調整し進行管理を行う必要性があります。	交通事業者、道路管理者及び公安委員会、それぞれの事業推進が図られ、総合的なバリアフリーの推進が図られるよう、事業者間を調整し進行管理を行う必要性があります。また、交通バリアフリー基本構想に基づく特定事業計画の取り扱いについて国の動向を注視し、必要に応じて見直しを進めます。

1. 事業の位置付け

事務事業名	駅前参道修景促進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	'02	2 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 地域住民、商店会等】		
目的・目標		事業の概要	
大門通りでは、八幡宮に向かう歴史を活かしたにぎわいある参道の修景づくりに、市民や商店会などが主体となって取り組んでいます。		ゆとりとうるおいのあるまちの顔づくりを進めるため、市民や地域の商店会などによる平塚八幡宮の歴史を活かした景観形成を促進し、にぎわいのある参道づくりを目指します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	計画の進捗率			単位	%
	説明・算定式	H19:基本方針50% H20:計画策定50%・				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	50	100	100		
	実績	35	40	45		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	地元商店会等によるイベントの実施など大門通りの参道修景について取り組みが行われています。市民主体で取り組むものですが、技術的な助言や専門家の派遣など、市の果たす役割があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	活気ある魅力的な中心市街地をつくるための一つの要素として、歴史を活かした参道修景を図ることは有効です。市民の主体的な取り組みが不可欠であり、意識の高揚と主体的な活動を促し、拡大していく必要があります。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	地域が主体となって行う地域の魅力を高める景観形成の取り組みに対して、地域のニーズに応じて適切に支援することは協働のまちづくりからも妥当です。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	参道の修景を推進するために、専門的なアドバイスを参考にしながら、地元商店会等との協働により検討を行うなど効率的に進めています。	● 高 ○ 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		計画づくりや推進方策に関する支援	アドバイザーの派遣	アドバイザーの派遣
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	0.25	0.25	0.28
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		2,098	2,098	2,340
フルコスト (A+B)		2,098	2,098	2,340

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	③:遅れている 本事業に係る今後の取組方針等について庁内調整のみにとどまった。	③:遅れている 地域組織を立ち上げたが、地域組織との協議が進まなかった。	③:遅れている 計画策定の主体となる地域の組織づくりに、時間がかかっています。
	主な取組と成果	景観計画の策定と合わせて、駅前参道に係る景観づくりの方向性を検討。また、庁内各課と連携した事業の推進方策について庁内調整を行った。	景観計画の策定において、駅前参道を含む地域を景観重点区域に指定しています。また、関係課と事業の推進について検討を行うとともに、地域組織の立ち上げを行ったが、計画策定までは至らなかった。	地域商店会による組織を立ち上げ、平塚八幡宮のぼんぼり祭りに合わせたイベントを実施しました。また、県の支援制度を活用し、商店会のほか、自治会や大学等も参加した中で、駅前参道の修景等について検討を行いました。
検証結果		B:おおむね成果があがった	C:十分に成果をあげることができなかった	C:十分に成果をあげることができなかった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。今後、新たな景観計画における景観重点区域のアクションプランの検討・実施と合わせて、地域住民等による具体的な計画づくりを支援し、より効果的な事業の推進に取り組む。	地元商店会等による具体的な計画づくりを支援し、協働のまちづくりを進めます。	地元商店会等の組織による組織の強化を図るとともに、修景の計画づくりやイベントの支援を行い、にぎわいづくりに向けて前進する必要があります。

1. 事業の位置付け

事務事業名	見附台周辺地区土地利用基本計画策定事業		
事業担当	まちづくり事業部 まちづくり事業課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	'02	2 人々が憩えるゆとりと潤いのある都市空間を創造する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民、来街者	事業期間	～ 2007 年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO ○その他】【協働： 見附台周辺地区まちづくり委員会】		
目的・目標		事業の概要	
見附台周辺地区土地利用基本計画が策定され、にぎわいと集客を創出する土地利用に向けて事業化の検討が行われています。		にぎわいと集客を創出する具体施設及び事業化手法などの検討を進めるため、見附台周辺地区公共公益用地の土地利用の基本計画を策定します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	庁内調整会議等開催回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	4	-	-		
	実績	6	-	-		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	土地利用基本計画策定進捗率			単位	%
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	100	-	-		
	実績	100	-	-		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	見附台周辺地区は、中心市街地に存する一定のまとまりをもつ公共用地であり、その将来的な整備の方向性については、広く市民、商業界などの高い関心が見受けられる。市民アイデア募集では、252点の応募があった。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	土地利用基本計画の検討は、まちづくり委員会を主体に進めてきたが、市民委員の意見の尊重に努めてきた。また、策定の過程では、行政案に対するパブリックコメントを実施し、広く市民の意見把握にも努めてきた。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	これまでの土地利用基本構想、基本計画の策定段階は、市民を含む幅広い層からなる、まちづくり委員会を主体に進めてきており、協働の観点にたった事業の目的、対象、内容は十分に妥当性あるものと認識している。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	本事務事業は、今後、各所管の具体の施設計画等を取り込みながら、進捗を図っていくイメージであるが、事業手法の検討は大きなテーマになると認識しており、民間活力の活用も含め、十分かつ慎重に検討していきたい。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		基本計画の策定	各施設の事業化に向けた検討	各施設の事業化に向けた検討
財源内訳	国庫支出金	3,800	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	5,650	0	0
事業費 (A)		9,450	0	0
執行率 (%)		214.29	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	0.85	0.85	0.85
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,133	7,133	7,133
フルコスト (A+B)		16,583	7,133	7,133

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	①: 予定どおり	—	—	—
	遅れている理由	—	—	—
主な取組と成果		既定の見附台周辺地区土地利用基本構想に基づき、引き続き運営した見附台周辺地区まちづくり委員会を主体に基本計画の検討を進めた。基本計画の行政案がまとまった段階では、パブリックコメントを実施し、広く市民の意見や感想を求めた。以上を踏まえ、最終的な庁内調整を完了した後、平成20年3月、見附台周辺地区土地利用基本計画を策定した。また、今後の事業化に向けた実施計画段階における資料とするため、当地区の測量調査を実施した。*	既定の見附台周辺地区土地利用基本構想に基づき、引き続き運営した見附台周辺地区まちづくり委員会を主体に基本計画の検討を進めた。基本計画の行政案がまとまった段階では、パブリックコメントを実施し、広く市民の意見や感想を求めた。以上を踏まえ、最終的な庁内調整を完了した後、平成20年3月、見附台周辺地区土地利用基本計画を策定した。また、今後の事業化に向けた実施計画段階における資料とするため、当地区の測量調査を実施した。*	—
検証結果		A: 成果があがった	—	—
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		見附台周辺地区土地利用基本計画策定後の具体の施設計画等の進捗や熟度を高めるための庁内調整（関係課協議を開始）を行う必要性がある。	見附台周辺地区土地利用基本計画策定後の具体の施設計画等の進捗や熟度を高めるための庁内調整（関係課協議を開始）を行う必要性がある。	—

1. 事業の位置付け

事務事業名	北口駅前広場バリアフリー化事業		
事業担当	まちづくり事業部 まちづくり事業課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	'02	2 人々が憩えるゆとりとうるおいのある都市空間を創造する	
根拠法令等	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律		
対象・受益者	市民、来街者	事業期間	2007年～2009年
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
平塚駅北口を利用する市民、来街者が安全・快適に駅北口及び駅前広場を利用できるようになっています。		中心市街地の活性化のため、北口駅前広場をバリアフリー化します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	バリアフリー化進捗率			単位	%
	説明・算定式	H19:実施設計5%、H20:整備完成:95%				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	5	100	100		
	実績	4	54	100		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	北口駅前広場のバリアフリー化については、市民の声のほか、NPO団体から約8,000名の署名をいただいております。バス、タクシー等に平面移動で乗降できる駅前広場への改善要望の必要性は高いと思われます。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	平塚市総合計画第一次実施計画における「人々が憩えるゆとりとうるおいある都市空間を創造する」に位置づけられており、高齢者や身体障害者などの移動円滑化に貢献することから、有効性は高いと思われます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	高齢化社会の進展により、バリアフリー法が施行された中で、本市においても、交通バリアフリー基本構想を策定して、北口駅前広場のバリアフリー化を位置け、その整備を行うもので、妥当性は高いと思われます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	当該事業の施工に当たっては、できるだけ夜間の作業を避け、工期の短縮やコストの低減を図ります。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		実施設計	改修工事	改修工事
財源内訳	国庫支出金	5,200	6,200	87,000
	県支出金	0	0	0
	起債	0	56,000	54,000
	その他 特財	0	1,493	91,881
	一般財源	1,625	67,171	0
事業費 (A)		6,825	130,864	232,881
執行率 (%)		32.09	38.13	0.00
内訳	職員 (人)	0.75	0.75	1.10
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		6,294	6,294	9,192
フルコスト (A+B)		13,119	137,158	242,073

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	③: 遅れている バス事業者、タクシー事業者との調整に時間を要したため。	①: 予定どおり -
	主な取組と成果	JR、交通事業者、警察等と協議を行い、基本的な配置計画を作成した。	JR、交通事業者、警察等と協議を行い、配置計画を作成し、工事に着手しました。	JR、交通事業者、警察等と協議を行い、工事を完成しました。
検証結果		B: おおむね成果があがった	C: 十分に成果をあげることができなかった	A: 成果があがった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		駅前広場から改札までのバリアフリー化や、地下道の状況を踏まえた有効利用が課題となる。	駅前広場から改札までのバリアフリー化や、地下道の状況を踏まえた有効利用が課題となります。	駅前広場から改札までのバリアフリー化が課題となっています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	駅(西口)周辺魅力アップ事業		
事業担当	まちづくり事業部 まちづくり事業課		
事業種類	●ハード ○ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'02	②〈まちの顔〉 活気ある魅力的な中心市街地をつくる	
	'02	2 人々が憩えるゆとりと潤いのある都市空間を創造する	
根拠法令等			
対象・受益者	市民・来街者	事業期間	2004 年 ~ 2011 年
委託、協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
	目的・目標		事業の概要
西口跨線橋のバリアフリー化、西地駐輪場整備及び駅前民間複合ビルの建設促進により、まちのにぎわいを創出し、魅力アップが図られています。		まちの新しい顔づくりとして、まちのにぎわいや潤いを創出するため、西口跨線橋のバリアフリー（エレベータ設置）化の推進や西地駐輪場整備を促進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	JR東日本との協議回数			単位	回
	説明・算定式	-				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	5	5	5		
	実績	5	15	8		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	西口跨線橋エレベータ設置進捗率			単位	%
	説明・算定式	平成23年度を100%としたエレベータ設置進捗率。 H19:事前協議10%、H20:用地買収40%、H21:北側エレベータ設置13%、H22:南側エレベータ設置13%、H23:駅構内エレベータ2基設置				
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標	10	50	63		
	実績	10	15	20		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成19年度	平成20年度	平成21年度		
	目標					
	実績					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	西口跨線橋のバリアフリー化や駐輪場整備については、これまでも署名を始めとした数多くの要望が寄せられており、早期の課題解消が求められていることから、必要性は高いとされます。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	西口跨線橋のバリアフリー化や駐輪場の整備によって、西口周辺の利便性や景観の向上が図られることから、必要性は高いとされます。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	再開発事業用地の有効活用による課題解消によって市民ニーズにこたえ、西口周辺の魅力アップを図られることから、妥当性は高いとされます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	民間活力の活用が可能な部分については、積極的に民活手法を取り入れ、可能な限り少ない財政負担によって事業を実施します。	○ 高 ● 中 ○ 低	

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 決算額
事業内容		事前協議	事前協議	事前協議
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	0	0	0
	起債	0	0	0
	その他 特財	0	0	0
	一般財源	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0
執行率 (%)		0.00	0.00	0.00
内訳	職員 (人)	1.15	1.15	0.95
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		9,650	9,650	7,939
フルコスト (A+B)		9,650	9,650	7,939

4. 事業展開の経緯

		平成19年度事業分	平成20年度事業分	平成21年度事業分
進捗状況	遅れている理由	①: 予定どおり -	③: 遅れている 用地買収協議及び西口全体の整備スケジュールの再検討に時間を要しているため	③: 遅れている JRとの土地交換を予定していましたが、JRとの交渉や庁内調整に時間を要しているため
	主な取組と成果	ライナーホーム設置について市としての方針を変更し、西口再開発事業用地の有効活用により、駐輪場整備や西口跨線橋のバリアフリー化を図り、駅周辺の魅力アップを図るために、ライナーホーム設置の方針変更と西口地区の土地利用方針について庁内調整の上、庁議決定した。また、庁議決定を受けて、関係者に説明し、理解された。	JR東日本用地買収について土地交換を含めた協議を行い、実施に向けて基本的な方向性が出せました。西口跨線橋及び駅西口構内のエレベーター設置について協議を行い、設置について、覚書の締結準備を進めました。	西口跨線橋及び駅西口構内のエレベーター設置について、JR東日本と覚書を締結しました。
検証結果		A: 成果があがった	C: 十分に成果をあげることができなかった	C: 十分に成果をあげることができなかった
		平成21年度への展開	平成22年度への展開	平成23年度への展開
今後に向けた課題		早期の西口跨線橋のバリアフリー化に向けた鉄道事業者との協議を継続することと、民活手法を取り入れるために必要な用地の確保のための地権者協議を推進する。	早期の西口跨線橋のバリアフリー化に向けた鉄道事業者との協議を継続することと、民活手法を取り入れるために必要な用地の確保のための地権者協議を推進します。	エレベーターの設置や用地交換の事務処理の迅速化をJR側に促していきます。